

大分工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	法学概説 I	
科目基礎情報							
科目番号	31M406		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	機械工学科		対象学年	4			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』有斐閣双書						
担当教員	久保山 力也						
到達目標							
(1) 法的思考の特質を理解し、現代社会における法の役割・機能を理解する。(定期試験) (2) 立憲主義の観点から、近代法の特質を理解する。(定期試験) (3) 日本国憲法の基本原理・構造と、刑事法の機能を理解する。(定期試験) (4) 日常生活を法的観点から把握することができる。(定期試験)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	法的思考の特質を理解し、現代社会における法の役割・機能を十分に理解することができる。		法的思考の特質を理解し、現代社会における法の役割・機能をある程度理解することができる。		法的思考の特質を理解し、現代社会における法の役割・機能を理解することができない。		
評価項目2	立憲主義の観点から、近代法の特質を十分に理解することができる。		立憲主義の観点から、近代法の特質をある程度理解することができる。		立憲主義の観点から、近代法の特質を理解することができない。		
評価項目3	日本国憲法の基本原理・構造と、刑事法の機能を十分に理解する。		日本国憲法の基本原理・構造と、刑事法の機能をある程度理解することができる。		日本国憲法の基本原理・構造と、刑事法の機能を理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義では、社会的ルールの1つである「法ルール」への理解を深めたくて、基礎法・憲法・刑事法を中心に、皆さんが社会人・職業人になった際に有用な日本法の基礎的な知識を学びます。						
授業の進め方・方法	【授業の進め方】講義式で行います。適宜「学修プリント」を配布します。 【授業内容・方法】法学に関する諸問題を扱います。 【定期試験】達成目標(1)(2)(3)(4)につき2回の試験により評価します。 【合格ライン】総合評価60点以上を合格とします。 【再試験】実施しません。						
注意点	特にありません。						
評価							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	基礎法Ⅰ(法と社会生活, 法と道徳)	法の役割・機能を理解できる。			
		2週	基礎法Ⅱ(権利義務関係, 正義問題)	法学の特質と位置づけを理解できる。			
		3週	基礎法Ⅲ(法の適用問題, 法専門家)	法の適用の概要と裁判制度の概要を理解できる。			
		4週	基礎法Ⅳ(紛争解決)	紛争解決の特質を理解できる。			
		5週	基礎法Ⅴ(裁判制度)	裁判制度の仕組みを理解できる。			
		6週	基礎法Ⅵ(法の効力と判例, 解釈問題)	法の解釈ならびに国家と憲法の関係を理解できる。			
		7週	基礎法Ⅶ(司法の限界)	司法が抱える問題点について具体的事例を通じ理解できる。			
		8週	基礎法Ⅷ(現代法学の争点)	現代法学がとらえる争点について理解できる。			
	2ndQ	9週	前期中間試験	—			
		10週	憲法Ⅰ(憲法の基本構造と人権規定)	憲法の基本構造と人権規定の内容を理解できる。			
		11週	憲法Ⅱ(平和主義)	憲法9条と平和主義の意義ならびに問題点を理解できる。			
		12週	刑事法Ⅰ(犯罪論, 罪数論, 刑罰論)	犯罪論, 罪数論, 刑罰論の内容を理解できる。			
		13週	刑事法Ⅱ(刑事実務)	刑事実務の仕組みを理解できる。			
		14週	刑事法Ⅲ(刑事政策, 刑事第一審)	刑事政策ならびに刑事第一審の仕組みを理解できる。			
		15週	前期期末試験	—			
		16週	前期期末試験の解答と解説	—			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10